

# 同和問題

## こんなコト思っていないませんか？

同和地区は怖い、あぶないなどと聞いたことがあるよね。

私たちの周りには同和地区がないので関係ないよね。

同和問題は昔の話だからそっとしておけば、そのうちなくなるんじゃない？

同和地区の方が優遇されすぎるのは「逆差別」だと思うんだけど…。



## そんなコトないです！

- 同和地区に対する差別意識がある限り、すべての人にとって健全な社会とは言えません。同和地区があるからと差別があるのではなく、差別することが問題です。
- 「同和は怖い」という誤った意識を利用して、不当な要求をする「えせ同和行為」<sup>※</sup>が増えています！！
- 「寝た子を起こすな」という考え方がありますが、間違った知識や自分は関係ないという態度が偏見<sup>へんけん</sup>を生み、誤った情報が社会に広がり差別につながっています！！
- 「逆差別」だという声がありますが、同和地区がおかれている実態から何が必要か考えることが大切です。



※

### えせ同和行為とは？

「えせ同和行為」とは、同和地区に対する誤った「怖い意識」や「やっかいな問題に関わりたくない意識」を利用して、部落解放運動とかかわりのない者が同和団体の名をかたり、高額な図書購入を強要したり、金銭の要求をしたりすることであり、同和問題の解決を妨害する許されない「差別行為」です。

## こうしていきましょう！

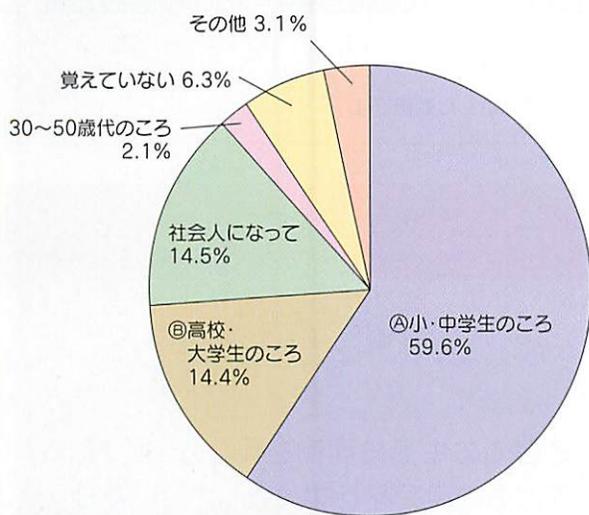
- うわさやデマ、偏見にとらわれない確かな見方、考え方をしましょう。
- 出身地を隠す必要のない社会をつくりましょう。
- 「えせ同和行為」に対しては、  
最寄りの法務局や警察署に相談しましょう。
- インターネットなどで個人を誹謗中傷するような書き込みは、やめましょう。
- 同和問題について、正しい知識と情報を得るために研修会に積極的に参加しましょう。



## 知っていますか？

- 「あなたが、同和問題をはじめて知ったのはいつごろでしたか。」

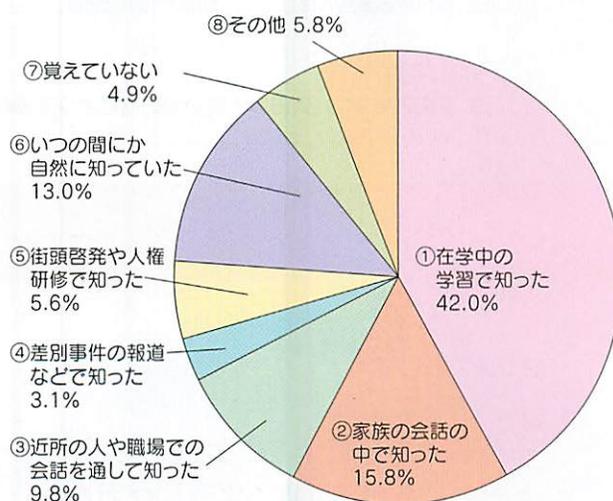
(認知時期)



同和問題について④「小・中学生のころ」という、義務教育の段階で知った人が6割弱を示しています。さらに⑥「高校・大学生のころ」を加えた教育期間で見ると、74%の人が教育段階で知ったとなっています。

- 「どのようなきっかけで同和地区の存在や差別があることを知りましたか。」

(認知経路)



認知経路として挙げた8つの選択肢を

「教育・啓発」	(①+④+⑤)	50.7%
「身内」	(②)	15.8%
「仲間」	(③)	9.8%
「その他」	(⑥+⑦+⑧)	23.7%

の4つに区分すると「教育・啓発」が50.7%と最も高い。

※大野城市人権・同和問題市民意識調査より(平成21年7月)